

建築と音楽の“波調”

アトランティス アソシエイツ株式会社
アルベール・アビュト

このコンサートホールを設計することはわたくしにとって大変な喜びでした。というのも、わたくしは建築家ですが、大の音楽愛好家でもあるからです。幼少時代にはピアノとフルートを習っていて、音楽の道に進むことも考えました。しかし建築への情熱が勝り、現在のわたくしがあるわけです。我々人間はいつしか消え去るものですが、音楽や建築は、永遠なものです。

この建物は、(株)白寿生科学研究所の本社と同時にコンサートホールを収容しています。この二つの異なる機能に通じるエントランスは一つです。したがって、エントランスホールは白寿グループの健康を担う企業としてのコーポレートアイデンティティとコンサートホールの芸術的な面を同時に引き立たせる必要がありました。

エントランスホールの中は、フランスから輸入した「セヴェノル」という大理石が、本磨き、水磨き、こたたき、ビシャンといった、4つの異なる仕上げでビジターを迎えます。それらはまるで4つの違う材料を見ているような印象を与えます。

ホワイエの空間は代々木公園と新宿のビル群を望む素晴らしい眺望に恵まれています。それゆえにシンプルに設計をこころがけました。木練付の壁、ブルターニュの熱成形ガラス、フランスで作られたタペストリーのみの要素で構成され、ビジターは素晴らしい眺めを前にひとときを過ごします。

コンサートホールは、音の波の浮遊感を表現した線で構成しています。音楽が止んだり、1つのテンポから異なるテンポへ移るとき、音の波が生まれ、作曲家が想像した世界、音楽家が演奏する世界へと、我々建築家が三次元にして聴衆を導きます。コンサートホールの規模を考慮に入れ、また音響技術者からの要求で、音響反射の要素としてガラスを使用しています。それらはホールの側壁やステージ上で使用していますが、ガラスの透明感によって同じボリュームを保っています。照明のシナリオがこの透明性に加わり、緊張したり和らいだり、まるで音の世界に浮かんでいるような感覚を作り出します。聴衆の視界はこの透明性の奥に消えて行き、音の波が、ときに強く、ときに優しくうちよせませす。ボリューム、空間、そして時間をつくり出すことは感情を駆り立てる贅沢な行為です。

今述べさせていただいたことが、わたくしがこのプロジェクトにかけた挑戦です。